

令和6年10月1日

6年生保護者の皆様

稲美町立天満東小学校
校長 宇城 万実

令和6年度全国学力・学習状況調査結果について

平素は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、令和6年4月18日に「全国学力・学習状況調査」が、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されましたので、その結果をお知らせします。

なお、序列化や過度な競争につながるような数値表現でのお知らせではないことをご理解くださるようお願いします。

本校児童の学力の定着状況は、県・全国平均と同程度で、大きな差異はありません。

各教科の観点別の成果と課題については、以下のとおりです。この結果を参考にして、各教科の授業改善に取り組みます。

< 国 語 >

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

当該学年までに配当されている漢字については、授業や家庭学習において反復練習したことで概ね定着させることができています。文の中における主語と述語の関係を捉えることが苦手な児童も見受けられます。話し合いの場面などにおいて、主語と述語を意識して短い言葉で話す学習を取り入れていくよう指導を工夫していきます。

【情報の扱い方に関する事項】

問題文から分析すると、高山さんのメモのようなイメージマップを実際に学習で使用したことがある児童が多く、関係する言葉を線でつなぐことについては概ねできています。授業等でも思考ツールのよさを伝えるとともに、使いながら定着を図ることができるよう指導を工夫していきます。

【わが国の言語文化に関する事項】

読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くために、授業の中でもブックトークやおすすめの本の紹介などを行ったことにより、本の中の言葉から自分を支える言葉を見付けたり、今までになかった考えを発見したりして、読書の意義をより強く実感していた児童が多く見受けられます。

【話すこと・聞くこと】

ゲストティーチャーの話や調べ学習の発表を聞く学習は行っているが、必要なことを質問しながら聞いたり、自分の考えと比べながら聞いたり、話したりすることに課題がみられます。自分の考えが伝わるように表現を工夫できるよう指導や教材の工夫を行っていきます。

【書くこと】

自分の考えが伝わるように、図表やグラフなどを用いてまとめる学習を国語科や総合的な学習の時間等において行ってきた結果、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書くことは概ね定着することはできています。自分の考えをまとめる際には、字数や使う資料等の条件を設け、条件に合わせて書くことができるよう指導を工夫していきます。

【読むこと】

登場人物の行動や会話、様子など複数のことを読み取り、そこから、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして読むことに課題がありました。教師が単元計画を工夫し、登場人物の全体像や表現などを叙述に基づいて読み取る学習取り入れるなど、指導を工夫していきます。

< 算 数 >

【数と計算】

計算スキルや計算ドリル、タブレット端末等を活用した反復練習により、当該学年の計算は概ね定着することができていますが、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことが苦手な児童も見受けられます。単に計算の習熟を図るだけでなく、計算の意味を正しく理解できるように指導を工夫していきます。

【図形】

円柱の展開図についてのイメージはできていますが、底面となる円の直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係についての理解が難しいように思われます。円周の長さは直径の長さの約3.14倍であることを活用し側面に当たる長方形の横の長さを捉える必要がありますが、円周の長さを直径の長さの2倍であると誤って捉えている児童が多く見られました。展開図の面積を求積する問題にも取り組ませる必要があります、概念をより理解できる指導や教材の工夫をしていきます。

【変化と関係】

問題場面では、伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴から規則性を見付け、それを基に、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることはできていましたが、伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを見つけることに課題がみられます。また、百分率で表された割合について理解することに課題がありました。自分の考えを順序だてて説明したり思考の過程をノートに記述したりするなど、問題場面を正しくイメージできるよう指導の工夫に努めます。

【データの活用】

表や棒グラフは他教科でも学習しているため、データの特徴を読み取ることはできています。普段の授業からデータを扱う単元では、単に数字に着目するだけでなく、全体や他の項目と比較したり、データの特徴を考察したりすることがありますが、自分の考えを順序だてて説明する力に課題がみられます。思考の過程をノートやタブレットに記述するなどの練習を積み重ねる等の指導をしていきます。

＜ 生活面 ＞ ※ 顕著な項目を紹介します。

「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」の各問に肯定的な回答をしている児童の割合が高いことから、家庭と連携した食育の取組を通して、「早寝早起き朝ごはん」が定着しつつあることがうかがえます。

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感について「将来の夢や目標をもっている」「人が困っているときは、進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」「人の役にたつ人間になりたい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」等の質問に肯定的な回答をしている児童の割合が高くなっており、自己有用感の高まりが児童の規範意識や人権意識の高揚につながっていることがうかがえます。今後も個々の児童のよさを発揮できるよう支援に努めていきます。

地域や社会に関わる活動の状況では、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」との問いに肯定的な回答をしている児童の割合が高く、地域での繋がりを感じていることがうかがえます。今後も、コミュニティ・スクールの取組を更に充実させ、学校、保護者、地域住民が目標を共有して、一体となって地域の子どもたちを育てていく取組の充実に努めていきます。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組では、「各教科で学んだことをいかしながら自分の考えをまとめる活動を行っている」「友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」等の問いに、肯定的な回答した児童多く、研究推進の取組の成果により個別最適な学び、協働的な学びに向かう態度が定着しつつあると考えられます。

ICT 機器を活用した学習状況では「授業中の調べ学習、友達に意見を伝える場面、友だちと協力して学習を進める場面、新たな考えに気づいたりすることができる場面」等で活用頻度が高くなっており、GIGA スクール構想により導入されたタブレット端末を活用した授業の積み重ねが結果に表れていると考えられます。今後は情報活用能力を育成するため、教育活動全体を通して、教育の情報化に取り組むとともに、情報モラルの指導を徹底し、家庭や地域と連携し児童の自主的・主体的な ICT 機器の活用に努めていきます。

学習に対する興味・関心や授業の理解度では概ね前向きな回答をした児童が多く、学習の有用性を感じている児童が高い割合を示しています。しかし、教科等によっては苦手意識を感じている児童も少し見られるため、児童のつまずきの解消や系統性を重視した指導の充実に努めていきます。

「学校に行くのは楽しいと思いますか」との問いに、肯定的な回答をした児童の割合が少し低くなっています。今後、一人一台タブレット端末を効果的に活用し、児童から相談しやすい体制を構築するとともに、学校生活に悩みや不安を抱えた児童の把握に努め、関係機関とも連携して、児童の悩みや不安に寄り添った対応をしていきます。

本校では、学校教育目標「自ら学ぶ意欲と 他を思いやる優しい心をもち 未来をたくましく生きる東っ子の育成」のサブテーマに「—かんじる つながる 自分から—」を加え、様々な機会を通して、“児童が自ら動く力”の育成をめざしています。今後も、学校、家庭、地域が連携し、継続して取り組んでいきます。